

連続手すり 900mmピッチタイプ

ベリティス
商品 P.1166

施工のポイント(寸法単位:mm)

△ 安全上のご注意

- 柱や下地の強度が不十分な場合は施工しない。
※ねじをねじ込み、柔らかい木材や腐れ、虫食いなど、
下地の状況を確認してください。

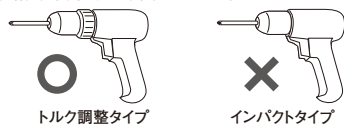
○ PB 12t 柱	合板 12t 柱	PB12t 柱
×	・しっくい ・塗り壁など	・胴縁 ・化粧合板 ・PB12tなど

- 仮固定中の丸棒手すりとブラケットは故意に丸棒手すりを揺すったり、力を加えたりしない。
丸棒手すり、ブラケットが落下し、けがをするおそれがあります。

- プラスターボードの二重貼りや胴縁施工GL工法、
軽鉄など、柱や下地材から壁仕上げ表面まで
12mmを超える場合は施工しない。
ブラケットの外れ、転落、転倒事故の原因になります。

- 潤滑油などの薬品を用いてふかない。
金具の破損の原因になるおそれがあります。

- 各部材を取り付ける際、インパクトタイプの電動
ドライバーを使用しない。
ねじの破損や、取り付け不安定による丸棒手すりの外れ、
転落・転倒事故の原因になります。



- 本部材は、住宅の屋内においてのみ使用する。た
だし浴室などの湿気の多い場所での使用はさける。

- 仮固定作業中は施工場所周囲に安全防護柵を施すな
ど、丸棒手すりが使用できないことがわかるようにする。

- 部材の仮置き保管は、湿気や直射日光の当たる
場所を避け、床面が水平な場所に保管する。
くされや材割れなどにより丸棒手すり部材が外れたり、折
れたりして、転落事故の原因になります。

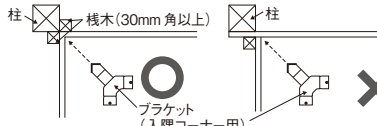
- 取り付けは必ず取り付け工事が施工する。
部材の反り、ネジレが発生し、取り付け不安定による丸棒
手すりの外れ、転落・転倒事故の原因となります。

- ブラケットの固定位置には必ず柱(木材)があるこ
とを確認する。または下地材(構造用合板12mm
以上)を柱の所定の位置に取り付ける(下図参照)。
ブラケットの外れ、転落・転倒事故の原因になります。

- ブラケット固定位置に柱がある場合



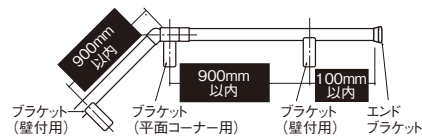
- ブラケット(入隅コーナー用)の固定位置には、図の
ように必ず柱と桟木(2か所)があることを確認する。
ブラケットの外れ、転落、転倒事故の原因になります。



- カップのシャフト軸・ナット部は必ず本体に水平に
なるように取り付ける。
カバーがきちんと締まらず、丸棒手すりが落ちけがをするお
それがあります。

- ブラケット固定の最終工程で、着脱ナットの増し
締めを必ず行う。
丸棒手すりの外れ、転落、転倒事故の原因になります。

- ブラケットの取り付け間隔は900mm以内にす。



- エンドブラケットやフレキシブルジョイントなど金
具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラ
ケットを取り付ける。
丸棒手すり本体やブラケットが折れ、転落・転倒事故の原
因になります。



- 天井、床に取り付けたスタート金具から100mm
以内に笠木ブラケットを取り付ける。

- 笠木ブラケット同士の間隔は900mm以内に納める。
取り付け不安定による手すりの外れ、転落・転倒事故の
原因になります。

- トルクの調整できる電動ドライバーを使い、ねじの空
転やねじがねじ切れることのないようトルクを調整する。

- 材割れ防止のために、必ず目地を下にして取り付ける。
取り付け不安定による手すりの外れ、転落・転倒事故の
原因になります。

- 丸棒手すりに必ず下穴(約φ2.5mm)をあけてから
ねじを取り付ける。
ねじが破損するおそれがあります。

- 部材の固定は材割れ防止のため必ず下穴をあ
け、同梱しているねじを使用し確実に締め込む。
ねじの突出によるけがや、保持力不足による丸棒手すり
の外れ、転落・転倒事故の原因になります。

- 本丸棒手すりには、「梱包内容の確認と施工上
の注意」に記載されている金具を使用する。
ねじやブラケットが折れ、転落・転倒事故の原因になります。

- カットの際は養生シートの上で行う。

施工前の確認

- 開梱したら、部材に損傷がないかご確認ください。
躯体へ取り付け後の損傷クレームについては責任を負
えませんので施工前にご確認ください。

施工上のご注意

- 塗装済み部材をシンナーなどでふかないでください。
色むら・ツヤむらの原因になります。
- 次亜塩素系洗剤(漂白剤、カビ用洗剤など)でふか
ないでください。金属部のサビの原因になります。

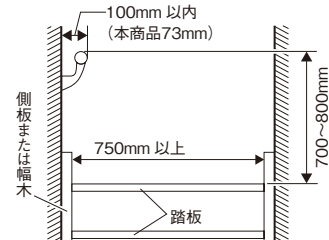
手すりの設置位置について

- 図のように手すりの取り付け高さは段鼻、床の位置から700~800mmが一般的です。
(使用される方の使いやすい位置に設置してください。)

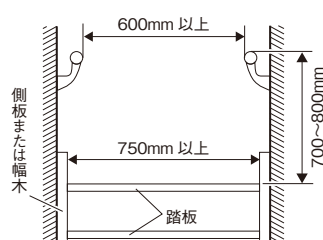
- 階段有効幅は建築基準法に基づき、750mm以上確保してください。
なお、図のように片側へ取り付けの場合、手すりの出幅が100mm(本商品の手すり出幅は
73mmです)以内であれば階段有効幅の750mmに算入することができます。手すりを両側へ
取り付けの場合は、手すりの先端間が600mm以上あることが必要です。(この場合でも階段
自体の有効幅は750mm以上必要です。)

- 手すりの取り付け位置寸法を厳守してください。

片側に手すりを設置する場合



両側に手すりを設置する場合

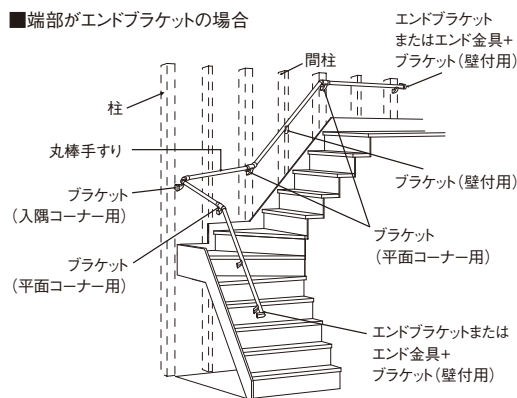


施工概要

階段姿図例(90°3段廻り12段)

※階段形態により手すりの取り付けパターンが異なりますが、施工方法は
共通となりますので、下記パターンを参考に施工してください。

- 端部がエンドブラケットの場合



取り付けの際は建築図面をご確認の上、施工説明書に
記載している各指定寸法に従って施工してください。

施工手順

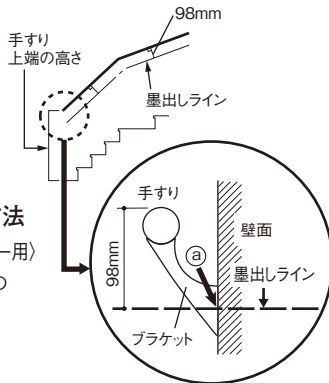
- 1 墨出し ▶ 2 ブラケットの固定 ▶ 3 丸棒手すりの固定 ▶ 4 ブラケットと着脱ナットの分離 ▶ 5 【クロス貼り工程】
▶ 6 ブラケットの固定(完全固定) ▶ 7 カバーの取り付け

※クロス貼り後の施工の場合、4 5 は不要です。

■墨出し

〈直線部～勾配部〉

段鼻からの手すりの高さを基準に、ブラケットと壁の接触面の中央部③に合わせたラインを墨出しする。



■ブラケットの位置合わせ方法

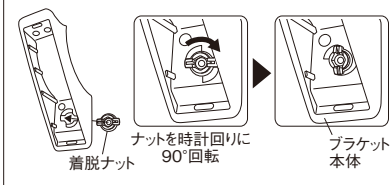
〈壁付用、平面コーナー用、入隅コーナー用〉

図のようにブラケットと壁の接触面の中央部③をブラケット取り付け位置(墨出しライン)と水平に合わせてください。

注意

ブラケットを仮固定する前に

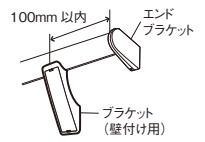
1. ブラケット本体と付属の着脱ナットがあらかじめ装着されていることを確認して下さい。
2. 着脱ナットは時計回りに90°回転させてしっかりと装着してください。



警告

必ず守る

- ブラケットの取り付け間隔は900mm以内にする
- 丸棒手すりに必ず下穴(約φ2.5mm)をあけてからねじを取り付けるねじが破損するおそれがあります。
- エンドブラケットやフレキシブルジョイントなど金具部材がくる場合、金具から100mm以内にブラケットを取り付ける手すり本体やブラケットが折れ、転落・転倒事故の原因になります。



ブラケット(壁付け用)の固定および丸棒手すりの固定

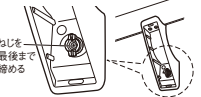
■梱包内容の確認と施工上の注意

部材袋 A (仮固定用) 着脱ナット取付用 ねじ 1本 皿φ4×50 丸棒手すり取付用ねじ 2本 なべφ3.5×25 ブラケット 本体 着脱ナット	部材は2種類の袋に分かれています。	部材袋 B (本固定用) カバー 赤袋 ブラケット 固定用 ねじ 2本 皿φ4×50 カバー 裏面 ねじはカバーの裏面に貼付てあります。
工程 手順1 ブラケットの仮固定 手順2 丸棒手すりの固定	【クロス貼り工程】 ※クロス貼りより前に 仮施工する場合 手順3	手順4 着脱ナットの増締め 手順5 ブラケットの本固定

【クロス貼り工程】※クロス貼りより前に仮施工する場合

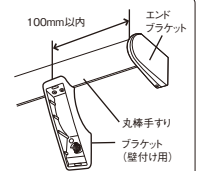
手順4 着脱ナットの固定

再びブラケットを着脱ナットに装着し着脱ナットのねじを最後まで締める。



壁に固定する前に

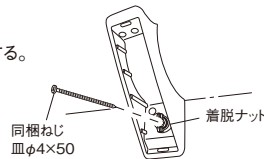
エンドブラケットが取り付けにくい場合はブラケット(壁付け用)を壁に固定する前にエンドブラケットを施工してください。エンドブラケットの施工手順は(P.395参照)



手順1 壁にブラケットを仮固定する

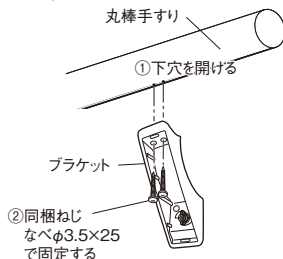
ブラケットに装着した着脱ナットを柱や下地材に仮止め固定する。

注意 ねじを壁に深く打ち込みすぎないでください。
着脱ナットが回らなくなるおそれがあります。



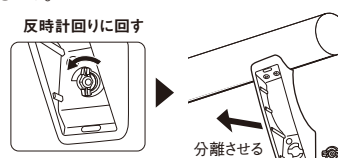
手順2 ブラケットと丸棒手すりの固定

- ① 丸棒手すりにブラケットをあて、下穴の位置を確認し、下穴(約φ2.5mm)をあける。
- ② 受け座と手すりを密着させ、同梱ねじ(φ3.5×25mm)で固定する。



手順3 丸棒手すりと着脱ナットの分離(着脱する場合)

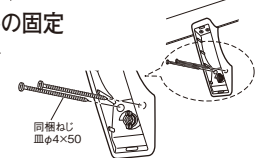
着脱ナットを反時計回りに回し、手すりと着脱ナットを分離させる。



※この時点では、着脱ナットのみが壁にねじで取り付けられている。

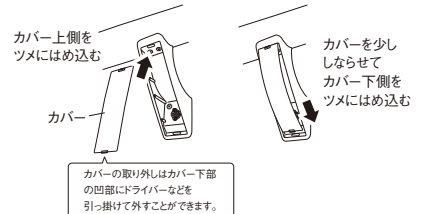
手順5 ブラケットの固定

同梱ねじ(赤袋、カバー梱包分)でブラケットの残り2か所を固定する。



手順6 ブラケットにカバーを取り付ける

- ① カバーをブラケットの上側のツメに合わせ、はめ込む。
- ② カバーを少ししならせて、ブラケット下側のツメに差し込む。



注意

- ・ブラケット固定の最終工程で、着脱ナットの増し締めを必ず行う【手順4】
- ・同梱ねじ(赤袋、カバー梱包分)で残り2箇所の固定を必ず行う【手順5】

丸棒手すりの外れ、転落、転倒事故の原因になります。



内装ドア

開き戸・引戸

折れ戸

戸襖ドア・戸襖引戸

幅広上吊り引戸

自動ドア

しきり窓

室内窓

収納用建具

折れ戸

3枚連動引戸

開き扉

収納用内部パーツ

玄関用収納

クロークボックス

エントランスパーツ

コンポリア

造作部材・腰壁部材

スリット格子

窓枠セット

ジャストカットオーダー

インテリアカウンター

階段・手すり

防音建材

室内物干しユニット

床下収納ユニット

点検口

はしごユニット

補修用部材

補修用部材

補修用部材

補修用部材

補修用部材

補修用部材

補修用部材

補修用部材

補修用部材

補修用部材

連続手すり 900mmピッチタイプ

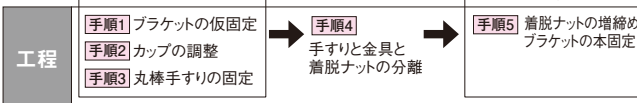
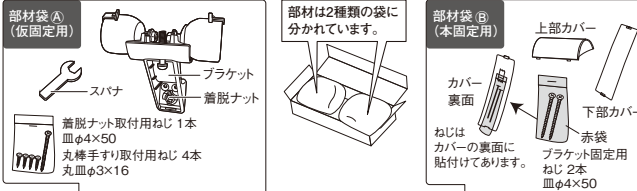
ベリティス
商品 P.1166

施工のポイント(寸法単位:mm)

施工手順

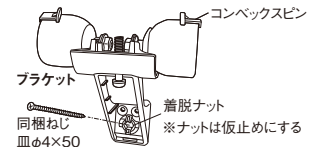
ブラケット(平面コーナー用)の固定および丸棒手すりの固定

■梱包内容の確認と施工上の注意:ブラケット(平面コーナー用)



手順1 ブラケットの仮固定

ブラケットに装着した着脱ナットを柱や下地材に仮止め固定する。
※丸棒手すりを仮置きしブラケットの位置を確認してください。

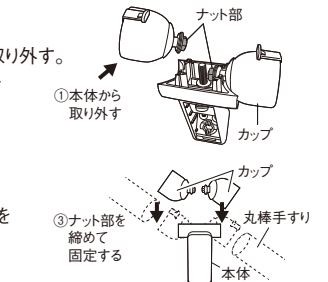


手順2 カップの調整

- ① カップのナット部をゆるめ、本体から取り外す。
- ② 丸棒手すりの取り付け角度に合わせカップの向きを調整する。

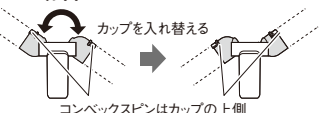


- ③ 調整後、カップを本体に戻しナット部を締めブラケットに固定する。
※左右同じ要領で固定してください。



■丸棒手すりの上下方向が変わる場合

コンベックスピンがカップの上側にある必要があります。手すりの上下方向が変わる場合はカップを入れ替えてください。

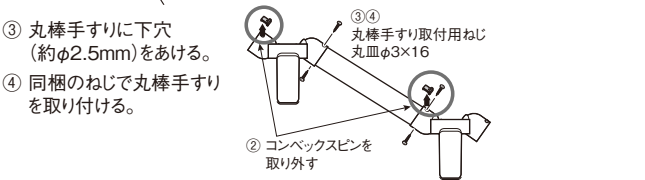
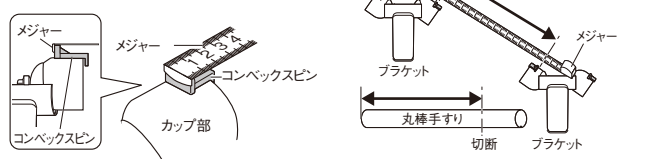


警告



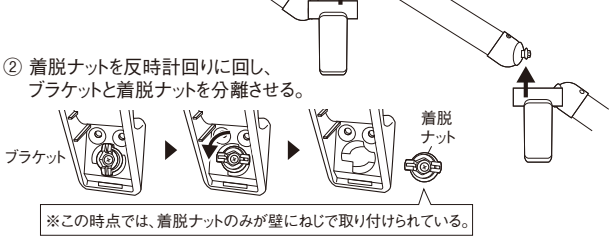
手順3 丸棒手すりの固定

- ① コンベックスピンにメジャーを引っ掛け、読み取った長さに丸棒手すりを切断する。
- ② コンベックスピンをカップから取り外す。



手順4 丸棒手すりと金具と着脱ナットの分離(着脱する場合)

- ① ブラケット本体からカップと丸棒手すりを取り外す。
- ② 着脱ナットを反時計回りに回し、ブラケットと着脱ナットを分離させる。

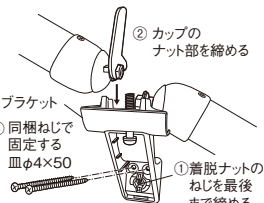


※この時点では、着脱ナットのみが壁にねじで取り付けられている。

【クロス貼り工程】※クロス貼りより前に仮施工する場合

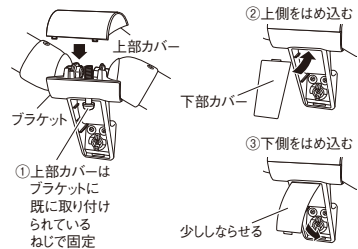
手順5 ブラケットの固定

- ① クロス貼りの後、再びブラケットを着脱ナットに装着し着脱ナットのねじを最後まで締める。
- ② カップと丸棒手すりを本体に取り付け、カップのナット部を締める。
- ③ 同梱ねじ(赤袋、カバー梱包分)でブラケットの2か所を固定する。



手順6 カバーの取り付け

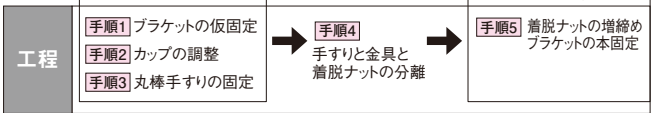
- ① 上部カバーをねじで固定する。
- ② 下部カバーの上側をブラケットのツメに合わせてはめ込む。
- ③ 下部カバーの下側をブラケットのツメに合わせてはめ込む。



注意 上部カバーとブラケットの間にすき間がないか、カップのガタツキはないか確認してください。

ブラケット(入隅コーナー用)の固定および丸棒手すりの固定

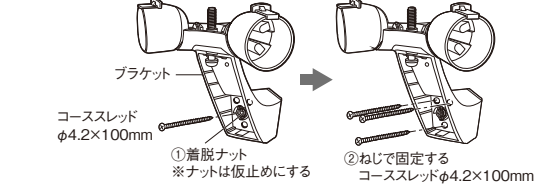
■梱包内容の確認と施工上の注意:ブラケット(入隅コーナー用)



手順1 ブラケットの仮固定

- ① ブラケットに装着した着脱ナットを柱や下地材に仮止め固定する。
- ② ブラケットを柱や下地材に同梱のねじで固定する。(着脱ナットを90°回し、仮固定する)

※丸棒手すりを仮置きしブラケットの位置を確認してください。



手順2 以降は「ブラケット(平面コーナー用)の固定および丸棒手すりの固定」の手順2〜6と同様の施工を行ってください。

395